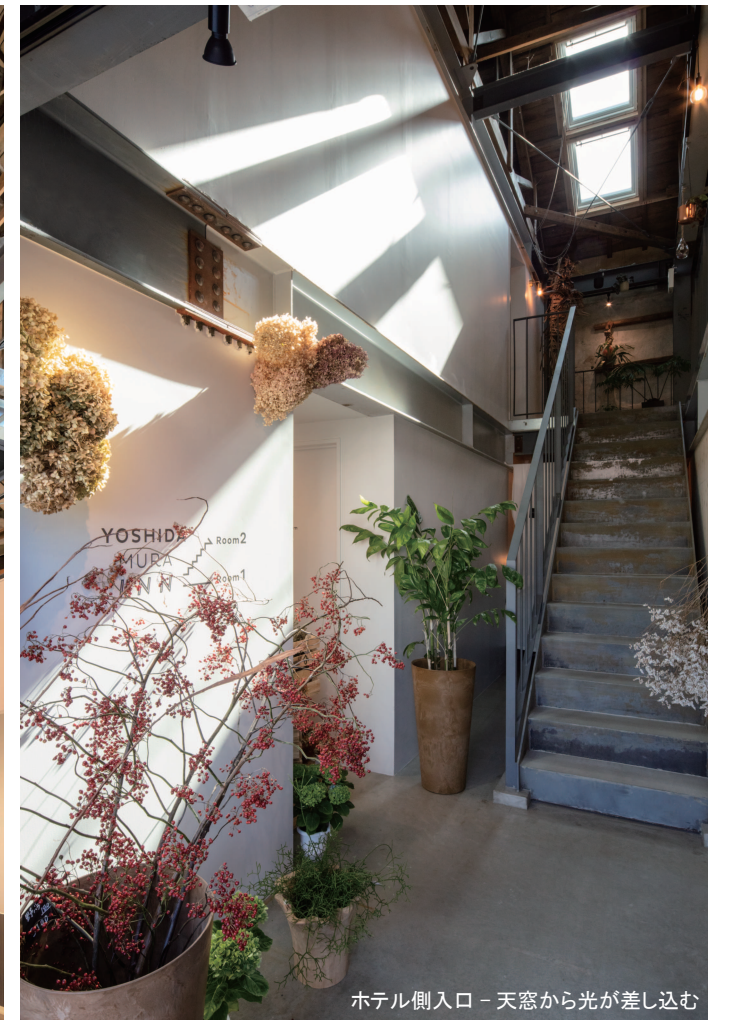
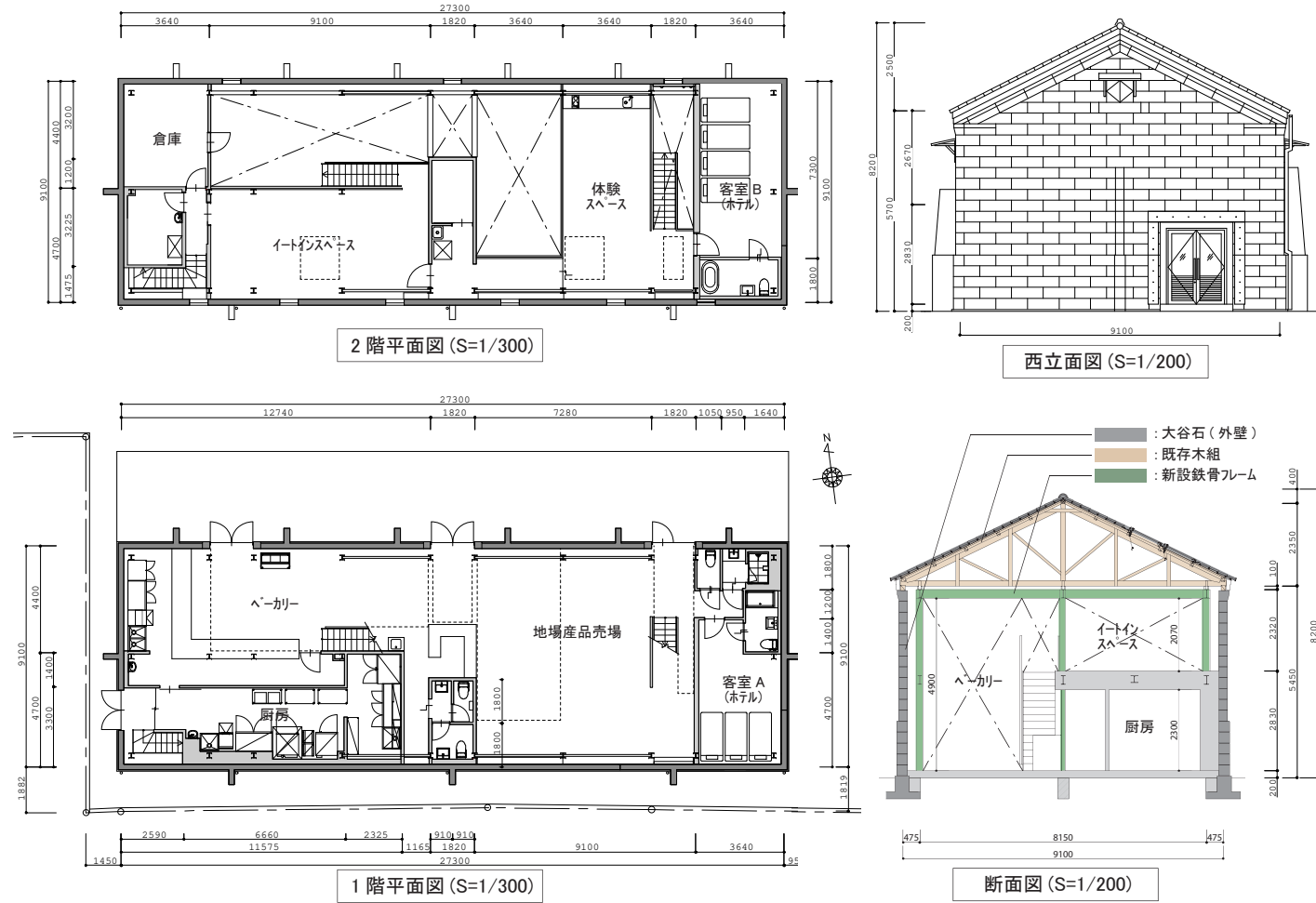


■ 吉田村歴史遺産をコンバージョンしたプロジェクト拠点「吉田村 Village」

「吉田村 Village」とは、旧農協跡地に産業遺産として取残された大谷石蔵（元穀物倉庫）をコンバージョンした吉田村 Project の拠点施設である。栃木県特産材の大谷石が使われ、長い時間の中で形を保ってきたその石蔵はシンボルとして十分な魅力を持っていた。コンバージョンコンセプトを「石蔵の歴史を繋ぐ」とし、地域の記憶を映す既存石蔵をできるだけ在りのまま残し、拠点機能を加えることで新たな価値を生み、地域と来村者のハブとなる施設を目指した。また構造体を組積造から鉄骨造へ変えることで現行構造基準を満たし、大谷石は構造体から外壁材へと役割を繋いだ。大谷石蔵は新たな吉田村の拠点として、シンボルとして、歴史を刻みはじめている。



■ 建築主コメント (シモツケクリエイティブ)

設計依頼に際し地域のランドマークとして80年以上の歴史を刻んできた大谷石蔵なので、手を加えず、壁などのテクスチャーを活かした、ありのままの姿を今の時代にあったカタチで表現してほしいと要望しました。完成後、施設稼働しデザインと機能性を兼ね備えた天窓など、これまでの構造では見ることのできなかった景色を体感でき、要望以上の全体の表現に大変満足しています。

■ 設計者コメント (アトリエ慶野正司)

拠点施設として整備した旧農協倉庫は地域と共に長い歴史を刻んできた存在であり、その建物の記憶を断ち切ることなく未来に繋げることが計画のテーマでした。その為、石蔵の要素をできるだけ残し作り過ぎないデザインに心がけました。また現行構造基準に適合させる為、既存基礎や小屋組みを保護しながらの鉄骨造への変身は困難を伴ったが、その当初目的を果たせたものと思います。

■ 施工者コメント (小林工業)

築80年の大谷石蔵の改修にあたり工事中の課題は多々ありました。一つは、石蔵が古い組積造で脆弱な構造体であることから工事中の安全性に注意した施工計画が求められたこと。最大の難関は、小さな入り口開口から内部への鉄骨搬入や限られた室内での鉄骨建方は極めて特異であり既存部位との調整も困難を強いられました。